

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ふ・れ・や・か・ちとせ館
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	千歳市 柏木 3丁目1-2
記入者名 (管理者)	田中 まさみ
記入日	平成 20年 01月 03日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ちとせ館独自の理念を作っており、日常来客者・職員の目に見える場所に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、ケアの場で実践し、理念の共有のもと利用者様と生活している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町内会より行事のお誘いがあり、ホーム行事のお知らせを回覧版でお知らせし、当ホームへ来ていただく事、地域町内へ出かけていく事のご理解を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時など、顔の合わせる場面では、挨拶、1言・2言の会話はある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内行事ゲーム大会や餅つき・カラオケのお誘いがあり、参加させていただいている。気遣ってくださる気持ちが利用者さんにも伝わっている。お手伝いの協力が必要な時は、できる範囲ではあるが、協力参加しますと連絡している。	参加後、町内会長宅・女性部長宅へお礼の連絡をしたり、ホーム行事の中でわからない点をお聞きし、教えていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホームで出る資源ごみを町内会へ出し、少しでも役にたてたらと取り組んでいる。推進会議で、困っている高齢者の方がいないかうかがっている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価を実施する意義を理解できており、協力体勢・改善努力は常にあり、取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービスの実際・利用者さんの実際・ホーム活動・失敗など報告しており、アドバイスをいただき、それをサービス向上にむけるにはどんな形がのぞましいか、結論を出すのは事業所であるが、意見・アドバイスをいただいている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型集団指導・地域包括会議には出席し、国の定めたサービスの質・事業所の特色をいかせるサービスの質に向かい日々、就労している。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度・権利擁護制度を学ぶ・学んでいる者は一定の職員のみとなっている。現在は必要な方はいないが、必要な方には活用できるよう支援したい。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、学ぶ機会を特にもうけていないが、日々、実践の場、ミーティング時で伝達し、周知している。虐待防止には常に実践している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者がおこなっている。その際は、十分な説明をおこなっており、不安・疑問点については、継続的にかがっており、説明し理解を得ている。双方、疑問が残る場合は納得いくまで話しをしている。	○ 開設当初と現在のホーム運営に変化があり、より一層のご家族のご協力が必要と思う。利用者様のできることを見極め、ご家族と共により良い支援ができるよう、努力したい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、不満、苦情は管理者に限らず、職員は何っており、利用者様本人からも言動がある。一部ではあるが、職員に言いつらい事はご家族へ話されている。その場合、ご家族から聞き取りをさせていただいている。また、限られる利用者様であるが、警察、道庁・役所に手紙を書き自分で投函されている。運営に反映できるものは1つ1つであるが努力している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時は常にご報告しており、遠方のご家族には、電話・手紙で報告させて頂いている。職員の異動については、必要最低限に報告させていただいており、聞かれた場合も必要最低限お答えし対応している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。意見、不満、苦情はその都度、言っただく環境作りを心かけており、その環境にある。管理者判断で対応できる内容は、その都度対応させていただいており、サービス改善につなげている。運営者へは管理者より報告している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は管理者にあり、管理者より運営者へ報告している。1つ1つであるが、反映できるよう前向きな姿勢がある。個人的に聞き取りをしたり、ミーティング時に意見や提案を伺っている。	○ 職員と運営者が直接、話せる環境が必要であり、設けていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	限られた職員数の中で柔軟な対応をしていくのは難しい。しかし、職員は協力しあい要望に対する努力を最大限している。	○ 現在、柔軟な対応・必要な時間帯に確保する為に運営者と話し合っており、見直しを検討中である。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職については、職員の個々の理由があり、それを拒む事は出来ない。運営者・職員は離職は利用者へのダメージが大きいことは理解している。新しい職員が入った場合は、利用者様が、なじみの関係を築けるよう、職員同士が協力できる環境がある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者から要請のある研修・自己申請の研修参加要望・資格取得の要望には、シフト変更し確保している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際に他施設の職員と交流を持つことができ、情報交換ができる。地域包括会議で他GHの職員と顔を合わせることがあり、今後親睦を図っていこうと話合っている。サービスの質の向上の必要性はほぼ理解されている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	喫煙者・非喫煙者の区別はないが、休憩室兼事務所が2階に設けられている。職員のみであるが、親睦を兼ね食事に出かけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個々の努力を認めている。職員はバラツキはあるが向上心を持ち努力している姿勢がある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでを関わる職員は限定されており、関わる職員は利用者・ご家族が何を必要としているのか、不安に思っていることを含め聞き出し、受け止めている。また継続的な聞き出し、受け止めが必要であり大切であると理解している。最善の努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでを関わる職員は限定されており、関わる職員は利用者・ご家族が何を必要としているのか、不安に思っていることを含め聞き出し、受け止めている。また継続的な聞き出し、受け止めが必要であり大切であると理解している。最善の努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームで対応できることをご説明しており、他のサービス利用については、問い合わせ先など認識している範囲で対応させていただいている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談からの関係作りには配慮し、経過してきていることが念頭にあるが、環境が変わる本人、ご家族、また利用中の利用者様・ご家族にも最小限のダメージで経過できるよう、職員全体で支えている。サービスをいきなり開始することは危険が伴うことを、当ホームは、職員全員が周知している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々一緒に過ごす中で利用者様から学ぶこと・支えあうことを実践しており、双方喜怒哀楽が出せる信頼関係が築けている。職員は理念を念頭に就労している。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から利用者様本人の相談事は勿論だが、ご家族自身の心配事や悩みなども受けることもある。ご家族へは、こちらから利用者さまの相談事は勿論だが、色々な事をお聞きし、解決策を探し、笑いあったり、悲しみあったりの関係は出来ている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族との良い関係が継続できるよう日々、実践し、その時々に応じた情報の共有に努めており、できる限り支援している。また、職員は本人とご家族の関係がよりよく続くことを常に願っている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力・支援があり、出来ている。今のところ、職員支援で出かけていく事は難しいが、ご家族が遠方の利用者さまには可能な限りGHで対応している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は職員は把握できており、利用者同士が関わりあえる場面は日常満載している。誤解が生じる利用者さんには、職員が間に入る対応をとり、誤解が生じないように未然に防ぐなどしている。利用者さんは職員の対応をよく観察されており、職員の対応も関係してくる事項であるが、利用者同士のよい関係が継続でき保てるように全員で努めてい	○利用者さんの中には孤立を好む方もおられることを留意されたい。あまり、過度に利用者同士が関わりすぎないように配慮していくことも職員の役目であると認識している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時には、顔を見に行ったり、退去後もお見舞いとうかがったりしている。ご家族と偶然、再会した時も、ご本人の様子をご家族から話されたり、ご家族ご自身のお話をされたりと立ち話になるが今も昔も変わらないように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は勿論だが、ご家族の意向・理解も含め情報収集している。本人にとって何が大事で必要であるかを把握することに努めている。困難な場合は、利用者の立場になりどうしてほしいかを考え検討するよう心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初の情報が少なく、ご家族や本人から再度情報収集してきており、記録・ミーティング・申し送りなどで情報の共有を図り、把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方、心身状態、変化を観察し、個人記録に記録されており、職員全員が把握できる状況にある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング・ケアカンファレンス等で意見交換があり、話し合い、本人・ご家族の意向を伺いながらケアプランが作成されている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時期、評価時期、状況変化時にはモニタリングを行い、現状に合うプランの見直しを図り、現状に即したプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の生活状況、受診経過、ご家族からの情報、ケアの実践など記録している。介護計画の見直しに活かせる記録にしようとする職員の前向きな姿勢もあり、活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時その時の状況にはできる限り要望に応じている。医療連携加算、看護師、訪問看護ステーションとの連携を目指し、進行中である。	○	病院受診など必要に応じ対応している。外泊、外出支援などご本人の気持ちを含めご家族へ伝達している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事などに、町内会・近隣の方々がボランティア参加して頂いている。警察・消防など公機関に防犯・防災・事故防止など安全な環境整備に協力いただいている。図書館は活用させて頂いている。幼稚園、障害者福祉施設からの協力があがる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容サービスを月1回利用している。市内の居宅介護支援事業所、他サービス事業者(美容室、マッサージ)などご家族と相談のうえに協力を頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会議に参加していただき、意見、助言を頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望する医療機関へ受診している。かかりつけ医との連携はとれている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を含め、認知症に詳しい医師と関係を築きながらすすんできたすすんでいる。診断、治療の説明をうけており、職員も相談できる関係にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員はいたが、健康を理由に退職され、現在はいない。現在看護職員の募集をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者・ご家族が主に動いており、情報交換し、記録、職員へ報告、周知している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主に管理者・ユニットリーダーが役割として担っている。起こりうる状況をご家族へ伝えるよう心がけている。その時はその時で考えるというご家族も多い。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	何事もご家族へ相談し、かかりつけ医と連携を行いホームとしてできることは可能な限り限界まで支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、ご家族の希望が優先されることであり、ホームとしては可能な限り情報交換に応じている。また情報を得られるよう働きかけしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input type="checkbox"/> 個々の利用者の性格、個性を職員で把握しており、個々に応じた統一した対応をとっている。プライバシーは保護できるよう常に職員は意識している。またミーティング時に職員の意識徹底を心掛けている。	
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<input type="checkbox"/> 個々に応じた説明や自己決定できる場面作り、雰囲気作りをしている。	
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="checkbox"/> 1人1人のペースは大切にされており、柔軟な対応ができるよう職員は常に心掛けている。急な希望にはその日のうちにそえない事も多いが、可能なことは希望がそっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<input type="checkbox"/> 個々にあわせ支援している。(洋服の組み合わせ、整容)本人の望む店への支援はご家族へ依頼しており、ご家族がムリな状況時はホームで対応している。	
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<input type="checkbox"/> 日常会話の中で何気なく何が食べたいかを聞き取り可能である限メニューに組み込む努力をしている。好き嫌いには対応仕切れない部分もあるがご家族へ了承をとっている。朝食の主食をパン食、米飯と好みで対応している。利用者職員と一緒にできる取り組みはしているが、その時の利用者の気持ちに配慮しすすんでいる。旬のものを取り入れてもいる。	
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<input type="checkbox"/> 嗜好品は支援しているが、何もかもは難しい(疾病、体重管理、健康管理、服薬状況)。ご家族と外出、外泊時に楽しんでおり、行事内容でお酒をだすよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し排泄パターンを周知している。トイレ誘導をおこなっており、個々にあわせポータブルトイレ、尿器を使用し支援している。失禁の際は清拭対応、シャワートイレし保清、清潔を保っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯量の関係上ムリな状況下にある。1日2人から3人までが限度である。月により、柚湯、薬草湯など香りを楽しむ支援を行っている。1部の利用者に限るが、タイミング・習慣で支援している。個々にあわせ体に負担のかからないように入浴支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じ休息、昼寝、安眠は確保されている。冬季は湯たんぽの使用を個々にあわせ実行し乾燥防止対応、室温に気を配り対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のできる事、出来そうなこと、生活歴、ご家族からの情報をもとに支援しており、役割を負担にならないよう配慮し支援している。出来た時は、「有難う。助かりました。」と言葉、ジェスチャーでお伝えしており、職員は実行している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは職員全員理解している。自分で管理できるかたは自分で管理している部分と何かの時にとホームへ預かり金があり、ホーム管理になっている部分がある。基本的には、全員ホーム管理としており、ご家族の理解、本人の理解も得ている。買い物時には、本人から支払うよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩などはその都度伺い実行している。外出はその日に希望されても対応できない状況にあるが、その日がむりであっても、可能なかぎり対応しており、ご家族の協力があり出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事で取り入れていること、社用車で数人ずつで近場の湖にでかける支援はしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。一連動作、作業ができない部分にはお手伝いさせて頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、自由に訪問していただき、本人の居室で過ごしたり、リビングで過ごしたり、自由にされている。訪問の際は、一般家庭での接待、を基盤に職員は心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあつてはならないと職員は理解、認識し日々取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。夜間のみ戸締りで施錠している。センサーを設置している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごしている利用者には様子伺いし状況確認され、全員見守りされ本人の表情、身体状況の様子観察がされている。夜間は見守りが頻回にされ、安全配慮は日々おこなわれている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、台所洗剤、薬品などは鍵のかかる物品庫に保管し、包丁などはケースにいれ、安易に手のとどかないところに保管している。包丁を利用者が使用する際は見守りしている。居室には本人が習慣で愛用してきている物が常備されているが、いつも同じ場所に保管徹底し確認し、状況を職員で共有している。これ以上は危険と判断した場合はご家族、本人へ話	○	洗濯洗剤などは利用者本位・職員の動きを考え、すぐ洗濯できる環境にしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	起こりうる危険因子に対し一人一人ケアプランに反映させている、マニュアルがあり防止に取り組んでいる。ミーティングで事故防止対策を話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル・緊急連絡網・緊急時対応は誰が見ても解るところに掲示しており、急変の可能性のある利用者は申し送り、個人記録に記載し、周知している。日常 スタッフ同士で包帯の巻き方、止血法などを練習し、自分たちで行うことはできると思う。定期訓練は行っていないが、「講習を受けたからできる」といったものではないと思う。	○	GH職員には、高齢医療・薬学・栄養学・精神/神経学・その他の知識・理解を要求され、高齢者の知的要求に応じられるほど多様な過去の時代背景・生活習慣に対応できる人材が必要とされている。また持続力、向上心、一般常識は必須である。これらの知識経験訓練の一から十までを事業所が為すべき「職員の教育」として担うことには疑問あり
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を実施している。災害時用の連絡網を掲示している。訓練については、職員の参加を呼びかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々起こり得るリスクがある事を伝え、対策をご家族と考え実行している。おこってしまった事実はご家族へ報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	チェック表(排泄・食事量・飲水量)などあり、毎日定時バイタルを実施し、いつもと違う場合は職員同士情報共有し最善のケアに結び付けている。受診が必要な場合は受診対応をとっている。状況変化が生じた場合は、ご家族へ連絡報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、容量の理解は出来ているが、副作用の理解は乏しいと感じる。薬に変更があった場合は送りし、周知している。薬内容は個人ファイルに綴じ、いつでも見れ、確認できる環境にある。服薬支援は何時、誰の薬かを確認しあい、飲み方に危険がある方は全介助したり、トロミ剤を使用したりと個々に合わせた介助方法を実施している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のあるものを入れたり、健康、便秘予防の為に個人的にヨーグルトを摂取していくことを促し実行している。利用者の状態に合わせて運動を声かけ行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず支援している。義歯の清潔保持もされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の疾病を把握しバランスの摂れるメニュー作りに努力している。食事量、水分量は日々記録され職員は把握している。個々に合わせた食事形態、自助具を支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルがあり、その通り実践している。ノロウイルス対策は通年、日々実践している。ホーム内、利用者の居室、所持品などの清潔にも気をつけ清潔を保つよう職員は実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、食器類は全て熱湯消毒しており、まな板、布巾は塩素消毒、調理時は手袋を使用している。食材は何時も新鮮なものが市内の個人商店から配達があり、安全面にも気をつけて下さっている。冷蔵庫、冷凍庫の清潔に努め保たれている。消費、賞味期限の安全管理もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすいか否かは個々人の価値観による違いがあるであろうが、当ホームの玄関はシンプル・機能的な設計であり、(緊急時や出入りのしやすさの考慮し)余計なものはおかないようにしつつ 快適な空間になるよう心掛けている。春～秋期は玄関前のスロープ付近にベンチを設置 近隣の方々が声をかけやすい環境作りをしている。入りづらいと言われ外部に面した各窓の寸法は、標準住宅の面積より10～20%大きく明るい。近隣は緑も多く季節感を十分に満喫できる。居間は朝日は直射するが、その他の共用部は日光直射はないよう設計されているため不快感はない。木造であるが基準に沿った防音性を満たしているが、地域の特性による演習音(航空機飛来・砲弾発射など)は、完全な防音できないので、居住者が「戦時を思い出し」不安を訴えることがある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはダイニングテーブルセットの他に、ソファがあり 寝転がったり、自由に過ごす空間を作っている。個人用の椅子も置かれ、安心していただく環境にある。散歩でとってきたお花などを飾り楽しみ・思い出を思い出せる空間作りを適時している。季節により、扇風機、うちわ、除湿器がおかれ、快適に過ごせるよう気配りされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド。収納家具。その他は 可能な限り、持込を原則とし。本人に馴染み深い品々に囲まれた日常が持続するように入居して頂いている。御家族にご協力いただき本人の好きな物を取り揃えるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、 外気温と大きな差がないよう配慮 し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高断熱構造の為、強制換気が常時されている。温度調節は、オール電化で 共用部・各居室とも各個調整できるので、個々人の健康状態・好みにも対応。 (冬、外気温と大差ない室温にするのは、北海道は無理です。)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建築設備は全て高度バリアフリー設計されており、機能的で安全に配慮されている。また入居者個々人の身体機能その他の要望・必要に応じ改装することも可能であり、職員補助・援助も過不足の無いようしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居住者に 職員は十分なコミュニケーション環境をつくるように心掛け、居住者の希望を聞いてサポートするようにしているが更なる努力が必要である。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節・天候によって、玄関外のベンチ。外周の芝生・園芸畑。リビング外のウッドデッキなどで過ごせるよう 行事を含めて計画実行している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)